

議 長	副議長	局 長	次 長	係 長	係	合 議

このとおり作成の報告がありました。

第 25 回 自治区制度等行財政改革推進特別委員会

日 時 平成 29 年 6 月 26 日 (月)

11 時 15 分～12 時 53 分

場 所 議会全員協議会室

【委 員】西村委員長、小川副委員長

柳楽委員、串崎委員、野藤委員、上野委員、飛野委員、笹田委員、芦谷委員、
道下委員、平石委員

【議 長】議長

【委員外議員】森谷、佐々木

【執行部】近重副市長、石本教育長、砂川総務部長、岡田地域政策部長、宮崎財務部長、
前木健康福祉部長、斗光市民生活部長、田村産業経済部長、
湯浅産業経済部参事、下垣都市建設部長、佐々木教育部長、佐々木消防長、
河野上下水道部長、宇津浜田地区広域行政組合事務局長、小川局長
吉永金城支所長、塚田旭支所長、細川弥栄支所長、斎藤三隅支所長、
佐々木市長公室長、山根総務課長、草刈財政課長、古森人事課長、
村木教育施設再編推進室長、西谷行財政改革推進長

【事務局】鎌原書記

議 題

1. 行財政改革実施計画平成28年度報告及び平成29年度計画（案）について
2. その他

【会議録】

(開 議 11 時 15 分)

西村委員長

皆様、お疲れ様です。定刻になりましたので、ただいまから、第 25 回自治区制度等行財政改革推進特別委員会を開会いたします。本日、出席者 11 名で定足数に達していますので早速会議に入ります。

1. 行財政改革実施計画平成28年度報告及び平成29年度計画（案）について

西村委員長

まず議題 1 について執行部より説明をお願いします。

行革推進係長

(以下、資料をもとに説明)

西村委員長

ただいま、説明が終わりました。

芦谷委員

今後の審議に日程についてお伺いいたします。

行財政改革推進課長

本日の暫定版としてお示ししました。この内容について今後部分的に修正がある可能性があります。今日のところでご意見を願いたいと思います。

西村委員長

決算等が出てから説明ということになりますか。

行財政改革推進課長

決算数字が出てない 2 点の項目については数字がでましたら、またお知らせをしたいと思います。行財政改革推進委員会から意見を踏まえまして修正がありましたら修正をする場合がありますが、その後に決算数字が出ます。

串崎委員

32 ページの補助金見直しの廃止ですが、右側に内容が書いてあって平成 33 年までであるのですが、詳細な指摘はここでは難しいのですが最終的に 390 万円減額したということですが、効果額を出されたのは担当の方でしょうか。評価は誰がしたのでしょうか。

行財政改革推進課長

こちらについては、産業経済部産業政策課の案件ですが、効果額を執行部で出したものです。

串崎委員

担当の方ができたものをそのまま通すといったことしかできないわけですね。

行財政改革推進課長

基本的には担当課から出た数字ですが、課、部や行財政改革推進本部会議を通じて、市として出したものです。

串崎委員

37 ページの広島開拓特別プロジェクトチームですが、私は予算の時に質問したのですが、この需用費についてはいつも減額になっているのですが、見方がわからないのですが、一番下に書いてある 599 万 5 千円が出ていますが、1800 万円から 1300 万円の差額と 144 万円を足すとこの数字がでたと思うのですが、この数字が平成 33 年まで行っていますし、成果がかなりあったと説明がありましたが、目標自体がどのようになってその成果がでているのかわからない状態です。この見方と考え方をお伺いします。

行革推進係長

数字による進捗状況ですが、広島開拓特別プロジェクト運営事業費の平成 28 年度に 182 万 1 千円に削減する。つまり 144 万 5 千円

を削減するという計画でしたが、最終的に不用額を含めて 600 万円程度の削減が図られたということです。平成 29 年度は 10 月から事務所を広島商工会議所に移転するという事で家賃削減を含めて計画額を修正して赤字の見消しにしています。

串崎委員

数字だけでは成り立たないわけで、そこには目標と成果がなければいくら予算を使っても駄目だと思います。広島市場開拓室が誘致企業を回ったなどの目標が重要だと思いますので、私は疑問に感じています。

総務部長

広島市場開拓室は、企業誘致や特産品の販路拡大の実績が評価の観点ですが、こちらは行財政改革ですので財政的にどれだけ縮減できたかに絞って評価をしていますので、本来の設置目標に対しての到達度は総合振興計画で他のところで別途説明させていただくということになるかと思えます。

笹田委員

11 ページの人事評価制度の導入による人材育成と処遇反映についてですが、係長以下の処遇反映については組合との協議が整わず先送りとなっていますが理由についてお伺いします。

人事課長

人事評価については 2 名の評価者が行っています。係員級であれば係長と課長が評価していますが、評価者の見直しや苦情が発生した場合の対応の調整を現在協議しています。

笹田委員

年度計画に 29 年度に協議検討を進めるという記載がありますが、組合との協議が順調に進めることができた場合に、こういった観点で行革につながることはできますか。

人事課長

評価した結果としてプラスやマイナスの方がそれぞれあると思いますが、やる気のところが一番だと思います。評価されて少しでも多くのお金を得るためにはますます頑張るということがあると思います。

芦谷委員

27、28 ページですが、健康寿命、平均寿命とも浜田市は低迷をしています。事業が多すぎて効果がないから廃止ということならいいのですが、この廃止についての理由がわかりません。自己負担を引き上げる、制度を廃止ということで市の健康づくりについての実績があがっていません。総合振興計画でも D 評価でした。市民の健康づくりの観点からいうと事業の廃止と自己負担の強化が結びつかないのですがお考えについてはお伺いします。

健康福祉部長

27 ページの健康ポイントについては効果がないという判断で 28 年 4 月から廃止にしました。28 ページの若者健康診査については循環人間ドックに移行したため廃止としました。総合振興計画の D 評価というのはガン検診の受診率が高くなっていないということで D 評価にさせていただいています。負担金などわかりにくいところもありますので今年度に健康増進計画を作成しますのでその中で整理できたらと思っております。

西村委員長

例えばということなのですが、33 ページの石州瓦の補助金な

のですが、この表だけでは補助金の額が減ったのはわかりますが、なぜ減ったのかがわかりません。例えば率や額を減らせば減ります。そのようなことは成果になりません。簡単に内訳を記載してほしい。どのように削減したかを記載してほしい。おそらく上限を削られたと思います。ポイントを書いてもらうとわかりやすいのですが、これだけ見るとわかりにくい。

行財政改革推進課長

この表だけみるとわかりにくいと思いますので、できるだけ簡単に工夫したいと思いますので検討させていただきます。

西村委員長

それでは、2番の持続可能な財務体質への転換について質問がありますでしょうか。

芦谷委員

67 ページのあさひひまわり工房について、結構利用者もおられると思っていましたが、資料を見ると利用者も減ってと記載してありますが、もう一度経過についてお伺いします。

旭支所長

昨年、利用者が2名と聞いています。この方も福祉施設の方へ変わられたということで利用者がおられなくなり廃止したと聞いています。

芦谷委員

この一帯は老人福祉施設もあって、旧旭町時代にこの施設は旭の福祉の拠点だと言われていましたが、市内には同様な施設があると思うのですが、せつかくの施設ですので障害のある方の技術支援に向けた活用ができなかったのかお伺いします。

旭支所長

この施設の運営は障害者の保護者がされてきました。その運営の方も年配になられたということで運営自体もできなくなり、利用者もいなくなったため廃止しました。他所から呼んできてなどの検討はしていません。

野藤委員

76 ページの世界子ども美術館、石正美術館及び石央文化ホールの管理運営費の見直しについて、28年度は今まで5年間毎年2千万円ずつ基本財産を取り崩して、約1億なくなったわけですが、28年度は縮減分2千万円を復元したと記載がありますが、これは基本財産が底をついたということだと思います。一方で31年度までに2千万円程度削減するということはプラスマイナスゼロということか。また、29年度から3施設の効果額2千万円がどこに出てくるのか読取れないのですが。

教育部長

28年度に2千万円をもとに戻したということです。29年度以降については運営費を毎年2千万円削減するということですが、効果としては、計画にあるものプラス額装費などを含めて計画数字に上がっています。

野藤委員

他の効果も含めてということですか。

教育部長

2千万円の運営費の削減と額装費と名誉館長の報酬の3つを合わせたものです。

笹田委員

57 ページの庁舎の有効活用について、行財政改革のなかで取得する土地よりも今から廃止する土地が少ないということでしたが、

元警察署の官舎がありますがその利活用についてお考えがありますか。

総務部長

官舎エリアについては、新しい官舎ができた後に県から譲渡の話があります。解体して更地にする議論をしております、今ある施設がまだ耐用年数もあり残存価格もあるということで6世帯入れる建物が2棟あります。UI ターンの方の短期入所やお試しの住宅に使用したり、若年層の漁業者の宿舎とかいろいろなアイデアを出さしていただいて、最終的に有効活用が決まれば建物を残したまま一部改修をして使うということもありますし、そういった使途がなければ解体をして更地にするということで協議をしています。

笹田委員

市費で改善せざるを得ないところもでてくるのではと思います。そうすると買ったのはいいが費用が多くなると行財政改革に反してくると思うのですが。

総務部長

62、63 ページにもありますが、第1次の公共施設の再配置ということで、浜田市全体で持っている資産を活用されていないものの処分を積極的にやっていきたい。その中で使えるものは有効的に使う。例えば公募して民間の方に使っていただいたり、市が必要な目的で使わなくてはいけないもの、例えば警察庁舎を分庁舎として一時的に使用していき、その役目が果たされれば解体して処分、売却になると思います。できれば遊休施設は積極的に処分していくと財政課とも協議をしています。処分していくことにあたっては上に古い建物がある場合は解体して売った方が有効に売れますのでそういうことも積極的に取組ながら浜田市全体の中で議論して進めていきたいと思います。

笹田委員

そういうことも踏まえて、62、80 ページですがこれがすんなり進むと行革も進んでいくと思います。必要ない土地や使っていない施設はどんな手を打っても処分したほうが固定資産税も入ってくるでしょうし、土地の活用で産業も興ってくるかもしれません。28年度の実績を見ると進んでないように思います。スピード感を上げていかないと行革と言いつらいのではと思います。

総務部長

市が持っている土地や建物が場所的な問題もありまして、公募をしても引き取り手がない現状もあります。9号線沿いのところは積極的にやっていますが、なかなか処分できないところは他のところとセットでしています。

芦谷委員

89 ページのところで人間ドック、脳ドックの自己負担の話をしました。お金の面を見れば削減されて効果が上がっているという評価なのですが、28年度は検診者、受信者数が減っています。お金は減ったけど市民の側の利益、不利益の検証をしないとお金が減った分だけの評価をすると判断を誤ると思いますので、お金では測れない市民の健康や文化の増進などの評価の資料の提示があれば審議が進むと思います。

行財政改革推進課長 先ほどいただいたご意見を踏まえて、いろいろな行革効果の項目をそれぞれの部署がサービスの低下を招かないように、なおかつ行革効果が上がるように取組んだ計画だと認識しています。この計画書で数字だけの効果ではないものを表現するのは難しいとは思いますが、この計画の主旨については財政的な効果額を出すということがあります。計画書に表現は難しいとは思いますが説明で詳しくやっていきたいと思えます。

芦谷委員 利用者数とか簡易なものでいいので数字の標記でお願いしたいと思えます。

笹田委員 74 ページの公立幼稚園の統合について、29 年度に建設場所の決定を行うということですが、以前市長がすくすくの前でと言われた記憶があるのですが、そのような計画で進められているのですか。

教育部長 そこを含めて検討するというので、今年度中には候補地を決めたいと思えます。

笹田委員 統合すると跡地がどちらかが残ります。新しく建てるのと両方残ることになりますが、それも並行して考えていかないと残ったからどうしようか、解体費はどうしようかということになりますので、新しい統合幼稚園を建てることと決定されていると思えますが、跡地利用も含めて検討しなくてはいけないと思えますが。

教育部長 今後については有効な使い方も含めて検討していきたいと思っております。

西村委員長 学校給食施設の統合について、過去何回も質問してきましたが、なぜこんなに統合に時間がかかるのかわかりません。計画を見ても 31 年度に方針策定ですのでまだ当分先です。この話がでてから 4 年、5 年ではありません。何がネックなのか、31 年に方針が策定できる根拠は何か、そこがよくわからないので説明をお願いします。

教育長 2 年前に地産地消を進めるため 3 年程度は推移をみるという方針を出しました。今回、学校統合の関係で諮問しており、答申が今年度か来年度の早い時期にでると思えます。それを受けて学校統合計画をつくるのが 31 年度になると思っておりますので、それに合わせました。なぜ、給食センターの話が前に進まないかは教育委員会の姿勢にも問題があるかもしれませんが、地元の皆さん、保護者の皆さんの方々の意見も大事にしながら検討していきたいという思いも教育委員会でありまして、時間を要しております。31 年区切りをつけましたのでその段階では方針を決定したいと思っております。

西村委員長 学校の統廃合の関係はわかったのですが、2 点目は何の推移と言われましたか。

教育長 地産地消の推移です。学校給食の中では地産地消の率を上げるという取組をしています。かりに統合したときに今までと同じように地元の野菜を使うことができるかというようなことも含めて検討しています。

西村委員長

そういったことはここに謳っていません。それであれば一つの柱になると思います。非常に重要なことなので謳ってないとおかしいと思います。それだと記述があわないと思います。

教育長

資料の内容には書いてありませんので、次にお示しするまでに事務局と相談をして修正をさせていただきたいと思います。

平石委員

給食センターのことについて、何年か前に統合計画を出されていますが、あの計画自体はなしで再度方針を策定するというのでしょうか。

教育長

以前の計画は白紙ということで検討しています。

西村委員長

他にありますか。全部通して何かありますか。

それではすいませんがもう一つ。30 ページの生ごみ処理機設置事業補助金の廃止について、これまでの生ごみ処理機の効果が見えづらいうことで廃止にされていますが、今年度か昨年度で水切り器具の提案がされていて、査定で落とされた経緯がありますが、生ごみの排出を抑制するという将来像があるわけですが、生ごみ処理機の補助金を廃止したことは費用的な面では大きな成果かもしれませんが、生ごみを抑制するという面では大事なことが抜け落ちていると思います。ここで打ち切ることはけしからんことだと思います。これは行革で追及するべきだと思います。こんなことでは仕事としてつまらないと思います。生ごみ処理機はやめたけど他のことで抑制していくと浜田市は考えましたということでない、こういうやり方は非生産的で面白くないと思いますので、29年度でぜひ復活を望みたい。

市民生活部長

廃止にした理由ですが、経費に見合った効果が得られていないということが挙げられます。本市における生ごみ処理機の生ごみの減少効果は0.07%の4.5トンでした。それに加えて近年の補助実績が低調であり需要が高いとは言えず、それに対して事務労力を要しているということを総合的に検討して生ごみ処理機を廃止したということです。それに代わるものとして水切りですが、今年度の予算要求では落ちましたが、食育フェスタなどを通じて水切り機のPRや家庭で水切り機がなくてもなるべく水を絞って生ごみを捨ててくださいという啓発を今後も進めていき、ごみの減量化ができればいいという方向性で動いております。

西村委員長

生ごみを抑制するために取った措置なので、それを辞めれば増えるわけですから、そうならないように定量的に測れる状態での策を考えないといけない。効果があるとは思いますが、どのくらいの効果があるかやっている市役所がわかっていないのですから、こんな補助金の使い方はないと思いました。やめる以上はそれに代わる策、それ以上の策を考えるべきだと思います。

教育長

先ほどの平石委員の発言の答弁で誤解があってははいけませんのでもう一度答弁をさせていただきたいと思います。白紙だといいま

したが、全くの白紙かと言われるとそうではなくて計画は凍結して様子を見るということにしています。統合する計画がなくなったわけではなくて最終的に2か所にするという案が残っていましたが、その後、1か所にする案、2か所にする案、それ以外の案などいろんな案を検討しているということで長年の検討結果を活かしながらさらに検討するということで、ゼロに戻ったということではないので、誤解のないようにお願いします。

2. その他

西村委員長

行財政改革推進課長

その他にありますか。

本日の計画暫定版については、ご指摘いただいた部分を含めて修正させていただくようになるかと思えます。今後、7月13日木曜日の午前中に浜田市行財政改革推進委員会を開催しまして、18名の委員に同様の説明を予定しております。その後、決算数値が確定した後に確定版として取扱いをさせていただきます。市議会9月定例会の初日の全員協議会において報告する予定にしております。また、第1期の公共施設再配置実施計画の進捗管理については、行革の項目において29年度計画を記載しているところです。10月から11月にかけてこの議会特別委員会と行財政改革推進委員会の委員の皆さんに改めて開催日時をお知らせしたいと思えます。

西村委員長

その他にありますか。

(「なし」という声あり)

では以上で終了といたします。お疲れ様でした。

(閉 議 12時53分)

浜田市議会委員会条例第65条第1項の規定により委員会記録を作成する。

自治区制度等行財政改革推進特別委員会 委員長 西 村 健 ⑩